

## 営農情報



詳しくはお近くの下記事業所までお問い合わせください。

東尾道営農センター ☎0848-56-1231  
尾道北営農センター ☎0848-29-9611  
向島営農センター ☎0848-44-2106  
因島営農センター ☎0845-25-6161  
世羅営農センター ☎0847-25-5029

浦崎支店 ☎0848-73-3311  
御調支店 ☎0848-76-2242  
甲山支店 ☎0847-25-5035  
世羅西支店 ☎0847-37-7100

## 水稲

次年度の作付計画と圃場・機械の準備はできていますか？

種子や箱苗、資材の準備等もさることながら、まずは圃場の準備ができていないかをチェックしましょう。

また、生産現場における事故未然防止に向けた対策を行い、「コンタミ」(異品種混入)や、箱処理剤と除草剤の誤使用などの人的作業ミスの起こりにくい環境作りに努めましょう。

## 【圃場の準備】

## ◆まずは圃場の準備から始めましょう

この営農情報でも何度となくお伝えしてきた「土づくり」ですが、実践されていますか？土づくりは継続することで「収量増加」や「品質向上」に繋がります。

土づくりの第一歩とも言える「秋起こし」による稲わらの腐熟促進は、温室効果ガス発生を軽減と併せ、活着を促進させ、初期生育を安定的に行うことができます。最終的な目標となる品質の良い米づくりの第一歩として、この作業は大変重要です。

管内でも収穫後の耕起が行われていない圃場を見かけることがあります。

「アグリ革命」を使用すれば、低温時でも酵素の力で稲わらをしっかりと分解させます。気温が低い今からでも効果が期待できます。

土づくり資材の投入と併せて、計画的に実施しておきたい作業ですので、稲作暦をご参照いただき、圃場の準備を進めてください。

## ◆圃場の均平化は済みましたか？

定植後の除草剤の効果を確実に保ち、圃場全体の均一な生育を確保するため、圃場の均平化を実施しましょう。

定植した苗が水没すると、欠株に繋がる場合もありますので、圃場管理の中でも重要なポイントの一つです。圃場に水

を張ってからでは難しいので、今の時期に均平化に努めましょう。

圃場整備から年数が経過した圃場や一枚の面積が広い圃場では、レーザーレベル等の大型機械を利用することで、効率的に均平化することが可能となります。

また、圃場内の畔際をトラクターを利用して踏み固めることで、漏水を防止する効果が期待できます。漏水の激しい圃場では、ベントナイト等を使用し、漏水防止に努めましょう。

## 【機械の再点検】

トラクターは年中田畑で活躍していますが、田植機やコンバイン、バインダー等は1年間で使用する時期が限られるため、使用後のメンテナンスを怠ると1年間放置された状態になります。

田植機の出番が近づいていますので、今一度機械の状態を確認し、スムーズにスタートできるように準備をしておきましょう。

## 【JA米について】

JAグループ広島では、安全・安心が確認されたお米、収入になる米づくりを柱とし、広島県産米の評価を落とさないよう、県下全域で「JA米」に取り組んでいます。

昨年要件を満たすことが出来なかった生産者の皆様は、次の要件を満たし、JA米として出荷していただくようお願い

いたします。

## ◆JA米3つの要件

- ① 毎年の種子更新または、JA育苗センターで購入した苗
- ② JA等の検査機関で検査されたお米
- ③ 生産履歴表及び自己点検チェックシートが記録されたお米

## 柑橘

柑橘栽培では先手必勝にかけて、剪定必勝という言葉がよく使われます。剪定はその年の品質を左右する重要な作業です。全園実施しましょう。

## 【中晩柑類の収穫・貯蔵のポイント】

貯蔵中は、1日1回を基本に外気温が貯蔵適温に近い時間帯に換気を行います。貯蔵庫が乾燥する場合は、打ち水や濡れムシロを敷き湿度を保ちます。

## ◆清見

清見の収穫は3月上旬が基本となりますが、本年度は早期からクラッキングが発生する可能性があるので注意しましょう。

収穫後は、乾燥によりヤケが発生するので収穫後に予措は行わず、有孔ポリ包装で出荷まで保管しましょう。

## ◆はるか

はるかは3月から出荷が始まります。出荷までに予措を7%程度かけることが重要です。

予措不足の場合は、引き続き通気性のある場所で予措を行ってください。予措後は、貯蔵庫で裏面を開けた新聞紙囲いで貯蔵しましょう。

## 【剪定】

剪定は、作業性や品質の向上目的で行いますが、理解度が深まると着花のコントロールも出来るようになります。樹を見て結果母枝が多い樹は花が多く、果梗が多い場合は不作傾向になります。花が多いと予想される場合は、切り返し剪定で新梢の発生を促します。不作傾向の

場合は、間引き剪定を中心に実施します。

剪定は暖かい園地から始めてください。剪定の順番は、ネーブルや豊作が予想されるみかんから取り掛かりましょう。剪定による除葉率は2割程度までとします。

## ◆八朔

樹高が高い樹が多くなっています。樹高短縮を行い、作業しやすい樹にしましょう。短縮の際は、枝の節(変り目)で切るようにしましょう。



▲開心自然形モデル樹(写真は八朔)  
第一垂主枝(赤○部分)に果実を多く着果させる。

## ◆はるみ

先端の枝に花を付ける性質を持っています。実が生る部分の夏秋梢を切ると、花がつかないので注意してください。花ボケすると小玉になるので、前年着果不足の場合は、強い切り返し(白筋の入った春枝部分まで切り戻す)を部分的に実施し、新梢の発生を促します。

## ◆はるか

トゲ傷がつきやすいので枝の間隔を十分とります。はるかは日当たりが悪いと着色不良となります。樹冠内部にも光が入るようにしましょう。

## ◆レモン

横枝上の立枝は除去し、樹冠内部まで葉がしっかりと付くような樹にしましょう。夏秋梢はかいよう病防止と春芽発生目的のため、芽つぼの上で切り返します。白

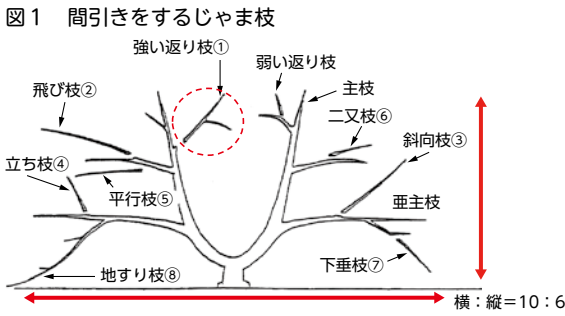


図1 間引きをするじゃま枝  
剪定で一番に切る枝は①強い返り枝！  
①強い返り枝を切ると、薬剤がかかりやすくなります。

## ◆しらぬい

充実した夏枝が優良な結果母枝となるので、夏芽が発生している立枝を利用し結果させます。従来の品種と結果習性が違うため、剪定方法も異なります。



▲八朔よりも横枝を長くし果実着果後は水平より横枝が下がるような樹形にします



▲不完全花



▲健全花



▲レモン用手袋  
レモンの剪定にお勧めです。  
刺が貫通しない手袋です。

筋の入った徒長枝は元から間引きます。

## ◆みかん

横枝を長めに(手で触って下がる程度)取ると、糖度の高い美味しい果実ができます。不作が予想される園地では、5月頃に着花状況を見ながら実施しましょう。





▲みかんの花が着く枝：結果母枝(前年発生した春枝)



▲果梗枝：本年新梢(来年の結果母枝)が発生する場所

## 【防除】

### ◆ハダニの防除

冬マシン油を施用してない園地では、高度精製マシン油乳剤80倍を散布し、ハ

ダニの初期発生を抑えましょう。カイガ

ラムシ多発園で冬マシン油が施用出来なかつた園地では、アプロードフロアブル1,000倍を混用散布しましょう。散布時は、発芽促進目的で尿素300倍を混用しましょう。

### ◆かいよう病防除

レモンなどかいよう病のつきやすい品種は、ICボルドー66Dを必ず散布しましょう。マシン油と14日程度空ける必要がありますので計画的に散布しましょう。

### ◆クワゴマダラヒトリ(毛虫)

多発園は、新芽や花を食害されるので防除が必要です。

### ◆除草

地温の上昇と春肥の吸収率を高めるために実施しましょう。毛虫が下草へ付いている園地では、毛虫を駆除してから除草しましょう。

## 【春肥の施用】

春肥は、春芽の充実や緑化促進など初期成育に必要な肥料です。予想収量に応じ、適量施肥を心掛けましょう。

### ◆灌水

降雨が無い場合、苗木には適宜灌水しましょう。

また、レモン園では3月の乾燥は不完全花の発生を助長するので、降雨が無い場合は灌水を実施しましょう。

## 【苗木植付の準備】

苗木植付の1カ月前には、直径80cm、深さ40cmの穴を掘り、バーク堆肥10kg、石灰2kg、よつりん1kgを混和し埋め戻します。園地が粘土質土壌の場合は、真砂土を埋め戻した方が生育が良くなります。

## 落葉果樹

## 【共通管理】

### ◆水分管理

落葉果樹の根は、発芽の1カ月前頃より伸長を始め、発芽・展葉・開花に備えます。この時期の灌水は、  
・肥料の分解、吸収を促進。  
・根の伸長を助ける。  
・発芽揃いを良くする。

など、初期生育に大きな影響があります。乾燥が続く場合は、日中に1回当たり20〜30mm程度の灌水を行います。

施設栽培では、被覆後から発芽までに徹底して灌水を行ってください。

### 【土づくり】

堆肥を投入すると細根が増加し、収量の増加にもつながります。

根が健全であれば、異常気象時の影響を受けにくくなります。土作りは高品質生産の第一歩です。堆肥を10a当り2〜3tを目安に施用しましょう。

ただし、多くの果樹の根は2月に動き出します。2月に堆肥を施用される場合は表面施用してください。

## 【病害虫防除(共通)】

露地栽培では、越冬病害虫の防除として石灰硫黄合剤の散布時期となります。各品目の防除暦を参考に、必ず散布しましょう。

散布時には、帽子、メガネ、マスク、カッパ、ゴム手袋等を着用し、近隣作物への飛散に注意しましょう。

## ぶどう

デラウェアの施設栽培では6月中旬〜7月上旬、ピオーネの施設栽培は7月下旬〜8月中旬出荷を中心に各作型の作業が重ならないよう、栽培計画を立て、計画的に作業を行ってください。

### ◆加温・無加温栽培

施設のビニール被覆、加温開始の時期となります。地温が十分に上がり、根の活動が始まってから加温を開始してください。

### ◆ピオーネ短梢栽培

2月下旬から3月上旬が芽傷処理の時期に当たります。

芽傷は芽よりも先端側の形成層を切断することにより、発芽を促進させる効果があります。主枝の延長等を行っている樹では必ず行ってください。

## もも

### ◆摘蕾(てきらい)

摘蕾は、蕾(つぼみ)が膨らんで先端に赤みが見え始めた頃に行います。結果枝の基部や枝の上側の蕾を除き、横向きや下向きの蕾を残します。

花粉のある品種や結実しやすい日川白鳳、あかつきは、開花による貯蔵養分の消耗を防ぎ、新梢生育を良くするためにを行います。

## いちじく

### ◆整枝・剪定

3月に入ると根の活動が始まります。2月中には終了するようにしましょう。

## なし

開花時には多くの貯蔵養分を消費します。開花期の養分浪費を防ぎ、果実、枝葉の初期生育を良くするため、真上に向いた短果枝や込み合っている場所の芽などは剪定の際に切除してください。

## 家庭菜園

寒い日がまだまだ続いています。長期予報によると2〜3月は平年に比べ晴れの日が多く、気温は平年並みとなる見込

みです。

今月号では、タマネギとジャガイモの栽培管理について紹介いたします。

### 【タマネギ】

2月中下旬から肥大に向けた準備が始まります。肥料を1㎡当たり30g程度施します。

タマネギは、肥料が遅効きすると腐りやすくなります。早生であれば2月中旬、中晩生であれば3月の第1週までには追肥を終えるようにしましょう。

茎葉が8割以上倒れたら、晴天日に収穫します。

収穫後1〜2日程度天日干しした後、5〜10球程度で縛り、日陰の風通しが良いところで保管しましょう。

### ◆ポイント

タマネギ等のネギ類は、べと病が大発生する年もあります。気温が15〜20℃で降雨が続く3月中旬以降は、特に発生の危険が高まります。病株の抜き取りや、薬剤散布など病気が蔓延する前の対策が必要です。

### 【ジャガイモ】

3月上旬になり霜の心配がなくなったら、ジャガイモの植付けが可能になります。2月のうちに畑を準備しましょう。収穫は6月頃になります。

### ◆畑の準備

植え付け1カ月前までに深く耕して、

1㎡当たり完熟堆肥2kg、植え付け1週間前に肥料100gを施し、約70cm幅の畝を立てます。

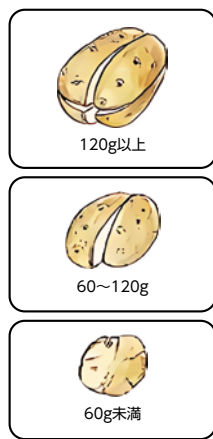
### ◆種イモの準備

種イモの大きさは、40〜60gは切らずにそのまま使用し、60〜120gは2つに、120g以上は3〜4個に切ります。

必ず芽が集まっている頂部を通るように切断します。その際、芽を切っても問題はありません。

切断した種イモは、切り口を上にして、1〜2日間陰干しを行います。

種イモも切断



### ◆ポイント

種イモが大きい場合は、どのイモにも必ず頂芽部が入るように、縦に頂芽の中心を切ります。(先端の芽が早く伸びるため)

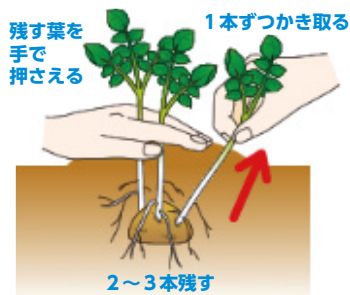
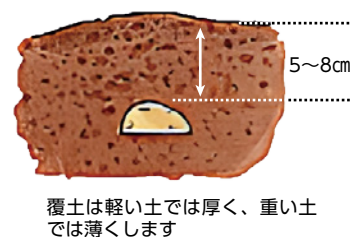
### ◆植付け

深さ10cm程度の植え溝をつくり、ジャガイモの切り口を下にして、覆土を5〜8cm程度おこないます。

植付け後、芽が出てきたら芽かきを行います。大きめの芽を2〜3本残して、

他の芽は根本からかき取ります。

その後、茎から分岐した枝にイモができます。したがって、土寄せをしないとイモが大きくなりなればかりか直射日光に当たり、緑色に変色してしまいます。芽かきの後に10cmほど土寄せをしましょう。



※冒頭でも触れましたが、霜の可能性がある間は植付けしないようにしましょう。基本的には3月に入ってから作業になります。週間予報などを見て気温を確認すると良いでしょう。